

第 14 回 松戸駅周辺まちづくり委員会 議事録

日 時 令和 2 年 11 月 27 日（金）10 時 00 分 から 12 時 00 分 まで

場 所 松戸市役所 新館 7 階 大会議室

出席委員 委員 12 名（別紙 委員名簿のとおり）

欠席委員 轟委員、横井委員、大須委員

事 務 局 街づくり部本多審議監、新拠点整備課長 他 3 名

傍 聴 者 21 名

議 題

1. パブリックコメント実施について
2. 新拠点ゾーン整備基本計画（案）の修正内容について
3. その他

配布資料

1. 新拠点ゾーン整備基本計画（案）に係るパブリックコメントの主な意見・市の考え方（案）について
2. 新拠点ゾーン整備基本計画（案）【新旧対照表】
3. 新拠点ゾーン整備基本計画（案）に係るパブリックコメント結果（意見内容及び市の考え方（案）について）
4. 新拠点ゾーン整備基本計画（案）

開会

司会

定刻となりましたので、ただいまから「第14回松戸駅周辺まちづくり委員会」を開催いたします。

本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。本日の司会進行役を務めさせていただきます、新拠点整備課 飯田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

また、本日は、計3社の記者から取材の申出がありましたので、入室につきまして予めご了承くださいたいと思います。

記者の皆さまにおかれましては委員会終了後、質疑の時間を設けさせていただきますので、ご希望される方は退室後、会議室前で少々お待ちいただきますようお願いいたします。委員会終了後、事務局からお声をかけさせていただきます。

始めに、本日の流れにつきまして、簡単にご説明させていただきます。

続いて僭越ながら私の司会で、会議の公開の確認、傍聴の許可の確認をさせていただきます。その後、議長であります横張委員長の進行のもと、次第に沿って、「1.パブリックコメントの結果報告について」、「2.新拠点ゾーン整備基本計画（案）の修正内容について」の順番で議事を進めてまいりたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

会議の公開について

始めに、会議の公開につきまして確認をいたします。当委員会は、「松戸駅周辺まちづくり委員会の運営に関する要領」第3条により原則、会議は公開としております。

本日の委員会につきまして、公開すること、及び傍聴の許可をすることに異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ声あり）

ご異議がないようですので、本日の委員会は公開といたします。

続きまして、本日の会議の傍聴について、報告させていただきます。本日、傍聴の申し出が21名の方より申し出がありました。「松戸駅周辺まちづくり委員会の傍聴に関する要領」の規定に基づき、「傍聴人の定員は、会場の広さに応じて設定する」とし15名以内と設定しましたが、本日記者の空席を調整し、21名全員の傍聴が可能となるよう会場を整理しましたので、全員の傍聴を許可してよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ声あり）

それでは、傍聴人の入室を許可いたします。

それでは、ここからの委員会の議事につきましては、「松戸駅周辺まちづくり委員会条例」

第7条第1項により、横張委員長に議長をお願いしたいと存じます。
よろしくお願い致します。

出席状況について

横張委員長

かしこまりました。

改めまして、おはようございます。

お忙しい中、お集りいただきまして、誠にありがとうございます。おおよそ2時間程度の予定でございますけれども、闊達な意見をいただきたいと存じます。

それでは、議事に先立ちまして、本日の委員会の出欠状況につきまして、事務局よりご説明をお願いいたします。

司会

本日の委員会は委員15名の内、12名の出席をいただいております。

従いまして、「松戸駅周辺まちづくり委員会条例」第7条第2項「委員会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。」の規定を満たす、過半数の出席をいただいておりますので、本日の委員会は成立しておりますことをご報告いたします。

横張委員長

どうもありがとうございました。

本日の委員会は成立しておりますので、このまま議事を進めさせていただきたいと存じます。

議事録署名人選出

横張委員長

次に、本会議の議事録署名人についてですが、関係機関と行政機関を除いた委員の皆さまから私の方で指名をさせていただいてもよろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ声あり)

横張委員長

ありがとうございます。

それでは、本会議の議事録署名人につきましては、林委員と長江委員をお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

林委員、長江委員

異議なし

横張委員長

ありがとうございます。では、2人に議事録署名人をよろしくお願ひしたいと存じます。

議事

横張委員長

本日の議題ですが、お手元の次第にございますとおり、大きくは2点となります。

「パブリックコメント結果報告」と『新拠点ゾーン整備基本計画（案）』の修正内容について」の2つとなります。

「新拠点ゾーン整備基本計画の策定について」第11回松戸駅周辺まちづくり委員会で諮問を受けているところですので、本件について委員会で研究、審議し答申することになります。

まず、議題1の「パブリックコメントの結果報告について」事務局より説明をお願いいたします。

事務局説明

新拠点整備課

おはようございます。事務局の新拠点整備課の木原でございます。

私から「パブリックコメントの結果」について、お手元の資料にてご説明させていただきます。座らせて説明させていただきます。

本日、配布させていただいた資料は、

1. 新拠点ゾーン整備基本計画（案）に係るパブリックコメントの主な意見・市の考え方（案）について
2. 新拠点ゾーン整備基本計画（案）【新旧対照表】
3. 新拠点ゾーン整備基本計画（案）に係るパブリックコメント結果（意見内容及び市の考え方（案））
4. 新拠点ゾーン整備基本計画（案） でございます。

3つ目の資料は、委員の皆さまに事前にお配りしていた、今回のパブリックコメントでいただいた全てのご意見を掲載した資料ですが、それに市の考え方（案）を追加したものとなっております。

なお、本日配布した資料の内容につきましては、本委員会での審議等によって、修正される場合がございますので、本日の委員会のための資料としてお取り扱いいただきますようお願いいたします。

それでは、新拠点ゾーン整備基本計画（案）に係るパブリックコメントの主な意見・考え方（案）をご覧ください。

横張委員長

資料番号があった方が、みなさま混乱がなくて良いと思いますので、一番最初の「新拠点ゾーン整備基本計画（案）に係るパブリックコメントの主な意見・市の考え方（案）につい

て」を資料1、「新拠点ゾーン整備基本計画（案）【新旧対照表】」を資料2、「新拠点ゾーン整備基本計画（案）に係るパブリックコメント結果（意見内容及び市の考え方（案）」を資料3、「新拠点ゾーン整備基本計画（案）」を資料4ということではいかがでしょうか。

新拠点整備課

今先生がおっしゃったように資料を番号でご案内させていただきます。

それでは、資料1にてご説明させていただきます。

はじめに、意見募集概要についてご説明いたします。募集期間は令和2年10月15日から11月13日までの30日間で行いました。周知方法につきましては、広報まつど、松戸市公式ホームページ、松戸市公式Facebook、Twitterなどの他、「MATSUDOING 2050」参加者などへもご案内しております。意見を提出された方は90名で、意見の総数は291件で行いました。提出方法は電子メールが46%と最も多く、以下多い順にファクス、応募専用フォーム、持ち込み、郵送で行いました。提出者の属性は、市内在住者が全体の95%にあたる86名で、そのうち、松戸駅周辺地区在住者は19名で行いました。

次に、カテゴリー別意見数についてご説明いたします。

本計画案は新拠点ゾーンに求められる機能や空間形成、整備の考え方及び概算事業費などをお示ししたものであり、市役所の移転そのものをお示ししたものではありませんが、庁舎に関する意見が非常に多く、市民の関心の高さが窺えました。その他カテゴリー別の意見数は記載のとおりでございます。

次に2ページ、3ページですが、こちらは次の議題に関係するものですので、ここでは飛ばして4ページ以降でご説明させていただきます。

それでは4ページをご覧ください。ここからパブリックコメントのご意見の中で、特に基本計画を修正なしと考えている意見について、ご説明いたします。時間の都合で全てご紹介できませんので、カテゴリー別に、意見の多かったものなどを抜粋しております。

それでは、カテゴリーの番号順にご説明いたします。

1の「庁舎建替え」については、「地震などが心配なので、早期に新庁舎を建設すべき。」

2の「庁舎建替え手法」については、「現地建て替えと、移転とのメリット、デメリットを公開してほしい。」

3の「庁舎その他」については、「新庁舎は自然エネルギーを採用してほしい、といった意見や、将来市役所機能の一部が不要になった際に、別の用途に活用できるような造りにしてほしい」といったご意見がございました。

これらの庁舎への意見に対しての考え方の案は、「市役所機能については、現在市役所機能再編整備基本構想として、基本的な考え方を取りまとめておりますので、準備が整い次第、速やかに公表し、市民の皆さまの意見をお聴きしたいと考えております」でございます。

次に、4の「事業凍結または延期」については、「コロナでなすべきことが山積しているため、開発を強行する姿勢を見直し、計画を一時凍結して市民とともにじっくり考えていくべき」に対しての考え方の案は、「コロナ禍の社会経済動向への影響については、現時点では、いまだコロナ禍の最中にあり、社会経済動向や生活様式の変化は続いていくと思われませんが、災害対応拠点の機能を果たすことは急務であり、今後につきましては、広報まつどなどでの市民への丁寧な説明等を考えております」としてあります。

5の「災害対応」については、「高台は洪水に対しては有利だが、斜面の近くは地震の際に

は被害が起きやすいのでは」に対しては考え方の案は「いただいたご意見を踏まえ適正な施設配置を計画してまいります」でございます。

次に5ページをご覧ください。

5の「災害対応」について、「江戸川が氾濫すれば国道6号もあちこちで寸断されるのであり、「江戸川が氾濫」という端的な想定だけで「移転建て替え」が必然とはならないのではないか。」に対しての考え方の案は、「市役所機能については、基本的な考え方を取りまとめ、今後、準備が整い次第、速やかに公表し、市民の皆さまの意見をお聴きしたいと考えております」でございます。

申し訳ございませんが、時間の都合で、ここから先は、ご意見のみの紹介とさせていただきます。

6の「施設内容」については、「現在の図書館があまりのお粗末です。文化都市松戸にふさわしい図書館を作ってください」といったご意見や、「アフターコロナの松戸では東京都心の大企業本社のサテライトオフィス需要が一気に増加すると想定でき、戦略的に駅周辺再開発での対応を進めるべき」といったご意見がございました。

7の「みどり」では、「松戸駅そばの松戸中央公園や相模台公園の緑、更に千葉大学の原始林、浅間神社の極相林は常磐線沿線で唯一つ残された誇るべき貴重な自然があり、これを生かさず手はない」や「相模台公園には樹齢約50年になる立派な桜の木々があり、これらは残してほしい」といったご意見がございました。

8の「歴史・文化」については、「松戸中央公園の正門門柱、旧陸軍工兵学校歩哨哨舎は市の指定文化財なので絶対に残してください」といったご意見がございました。

続いて6ページをご覧ください。

9の「交通」については、「国道6号から新拠点ゾーンまでの間の通学路となっている道路が、現状の歩道は、幅員が狭い箇所があり、すれ違う際に歩行者の一方が車道に出てしまう状況で、またその歩道は段差も多くバリアフリーではない」といった意見や、「現在一方通行のS字道路の相互通行化については、新拠点ゾーン利用を目的としない、通過だけの自動車交通量が大幅に増加することは明らかであり、再検討を要望する」といった意見がございました。

10の「市民説明」については、「パブリックコメントの取り方を、もっと市民に分かりやすい形で知らせてください」や「計画進捗の節目ごとの市民説明会を心掛けていただきたい。」といった意見がございました。

11の「市民参加（ワークショップ）」につきましては、「ワークショップなどの市民の声を取り入れることは継続しつつ、中学生や高校生にも伝えていく活動を教育の一環として行うべきであると感じます。」といった意見がございました。

次に7ページをご覧ください。前ページに引き続き11の「市民参加（ワークショップ）」関連の意見で、「マツドゥーイング2050に参加いたしましたが、市役所の計画は全く話に出ていませんでした。予算までついているのであれば、せめてワークショップの際に市民に話して欲しかった。ここで市役所ありきだったのかと知り、とても悲しく思いました。」といった意見がございました。

12の「議会」については、「市議会内に特別委員会を設置し、メリットとデメリットを公開し市民の声も聞く機会（現地か移転かなど）をご用意ください。」

13の「周辺まちづくり」については、「エリアマネジメント会社については、市内でまち

づくりを考えて活動している企業等も参加できるようなオープンな仕組みにしてほしい」といった意見や、「東口エリアと西口エリアにまたがった構想をすることができればより効率的かつ魅力的な街づくりができたのではないか」といった意見がございました。

14の「事業手法・事業費」については、「表題に整備基本計画とあるので基本計画図を示してほしい」や、「土地区画整理事業についての説明が曖昧で、事業地の範囲もよく分からない。」といった意見がございました。

次に8ページをご覧ください

15の「市の財政」については、「200億円或いはそれを上回る財政支出への対応策及び他の業務内容に与える影響が分からず、『第2の夕張市』とならないか。」といったご意見がございました。

16の「計画本文」については、「パブリックコメントを求めるための資料としては、量が多く繁雑で全容・結論を把握しにくい。」といった意見がございました。

以上が議題1のご説明とさせていただきます。

横張委員長

ありがとうございました。

では、ただいまご説明をいただきました資料1の内容につきまして、主にコメント中心に皆さま方のご意見、あるいはご指摘を頂戴したいと思います。

どこからでも結構ですので、ぜひよろしくお願いたします。いかがでしょうか。

私から先に確認させていただきますが、ちょうど募集期間が1ヶ月程度、全部で300件弱、100人弱からご意見いただいておりますが、これまで市が色々実施されてきたパブリックコメントと比較して量的にはいかがでしょうか。

新拠点整備課

平成18年からの統計となりますが、意見人数が全体の2位、意見件数だと2位となります。

横張委員長

やはり、こうしたパブリックコメント実施に際して、両方とも2位ということで、大変多くの方からご意見を頂けたということは、まず第一に「ありがとうございました」ということだと思えます。

こうした機会に様々なことを様々な市民の方がご発言いただけるということは、市として大変貴重な財産ですので、何か市民に対してお伺いする際には、まず第一には、「多くのご意見をお寄せいただきましてありがとうございました」という点を強調されることが必要なのではないかと思えます。まず皮切りに一言伝えさせていただきます。

では、他にいかがでしょうか。単純なご質問でも結構でございます。

太下委員

確かに多くの市民の方が関心をもってたくさんのご意見をいただけたということは、素晴らしいことだと思えました。

この資料1の最初のページを見ますと、カテゴリ別に意見が整理されていますが、どう

やってカテゴリーでくくるかによって数は変わるとは思いますが、現状のカテゴリー分析で見ると、10の「市民説明」が一番多い。おそらく市民の方も関心を持っていて、もっと情報が欲しいという要望が多いと推測できます。

この実際の意見の中でも、6ページの下の市民参加のカテゴリーで、「ワークショップなどの市民の声を取り入れることは継続しつつ、中学生や高校生にも伝えていく活動を教育の一環として行うべきであると感じます。」というご意見があつて、これは良い意見だと思います。

例えば、小中学校の総合的な学習の時間で「街づくり」という科目を設定して、この駅の周辺の街づくりを題材に「街づくり」の勉強をするほか、市内には公共機関が多数立地しておりますので、そういった学校と連携する形で、駅周辺まちづくりをモデルとした事業を構築していくなど、いろんな形でこの計画についての市民の理解、共感、参画を促すような仕掛けを作っていくほうが良いのではないのでしょうか。

横張委員長

事務局の方でただいまの意見についてはいかがでしょうか。

新拠点整備課

ありがとうございました。

いただいたご意見についての趣旨は、よく理解させていただいているつもりですので、今後の課題とし、情報の共有をさせていただきたいと思います。

横張委員長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

秋田副委員長

改めて「新拠点ゾーン整備基本計画(案)」のp.59にこれからのプロセスのデザインについて明確でないという意見が多かったので該当部分を見ますと、市民参加について具体化されていない印象があります。この部分について、具体的にデザインされるということが重要なのではないのでしょうか。

回答(案)においても「Facebook、Twitterで広報する」とあるが、私自身もSNSをあまり見ていないことから、そういうものに触れていない方が意見を言ったり、返したりする機会がなかなかありません。例えばオープンハウスなど、いつ市民が来てもこの計画について説明できるような場を設け、もう少し市民説明の部分に参加・説明を強化する必要がある印象を受けました。

長江委員もそうですが、この地域の大学の先生でも知っている人は少ないと思うので、広報と市民・市内事業者などの参加のデザインについて、個別に計画する必要があると思います。

長江委員

今、秋田委員からあつたように、計画を絵に描いた餅にさせないためには、やはり市民をはじめ、将来の利用者である中・高校生、あるいは市内4大学の学生たちの意見を反映され

ると良いと思います。特に施設概要の図書館などについては、利用者の視点として、様々な形のご意見を頂かないとただの居場所となってしまいます。

コロナ禍にあって、様々な形で起業するにしても、1つの情報拠点となる図書館を市民は求めていると思われるので、そういう点については計画の具体策として深めていただきたいと思います。

2点ほど素晴らしいと思った点があります。

1つ目はみどりであり、5ページの「7. みどり」のところで、樹齢約50年、あるいは松戸中央公園にはもっと長い樹木があり、みなさんが愛してくださっている松戸の「みどり」が書いてあり、さすがだと思いました。

ただ開発の時に木を伐採するのではなく、シンボルツリーとして生かすことは非常に重要です。また、正門門柱や陸軍工兵学校跡など、歴史的なことなどを上手く残して、この街を愛して頂く市民全員の憩いの場所にあることがプラスになるような市民の想いが、パブリックコメントに表れているのではないのでしょうか。

それから交通のパブリックコメントも素晴らしい。実は松戸中央公園を中心とした地区は文教地区となっています。例えば、私ども聖徳大学の方には幼稚園があり、徒歩だけでなく電動自転車で2人、3人乗りをしている保護者のお母様方もいらっしゃいます。やはり、自転車の利用や相模台小学校、松戸市立第1中学校など、子どもたちの交通状況の変化について、車を入れる場合にどう守るかを市民の方は考えてくださっている。

これからは、子どもと高齢者、特に車いす等については、1m幅がない歩道では不可能に近い。そういう細かなところを気付いてくださっていて、声をあげてくださっていることについて、市もしっかり計画の中でも受け止めて、考えなければならぬと気付かせていただきました。

横張委員長

ありがとうございました。

ただいまの2人の委員の意見について、事務局の方で何かございましたらお願いいたします。

新拠点整備課

市民の皆さまへの広報、お知らせ、それから今後の市民参加の取り組みについては、市としても非常に大切なものと理解しているところです。やり方については、具体的にここでお示しすることはできませんが、いただいたご意見を大切に今後進めて参りたいと思います。

それからみどり・歴史につきましては、本計画(案)の本編にも松戸駅周辺におけるまちづくりの方向性として、松戸駅周辺の生かしたいポテンシャルの1番、2番として記載させていただいております。市としましても、駅周辺のみどり、受け継いできた歴史性があるということは、非常に大切なことと捉えておりますので、今後の具体的な計画に生かしてまいりたいと考えております。

次に交通について、駅周辺全般的に交通については脆弱な現状を認識しております。その中でも聖徳大学をはじめ、小学校、中学校がある文教的な地区となっていることも承知しております。それに対してどのような交通動線を整備していくべきかは、大切な問題だと認

識しております。

本計画（案）の中では、歩行者動線、自転車動線、自動車動線と分けて整理して記載しながらも、1番大切なのは新拠点ゾーン内では歩行者中心として、歩く人にやさしい街づくりを目指そうという形でお示ししているとおり、具体的な計画の際にも、その観点に留意して計画して参りたいと考えております。

横張委員長

ありがとうございました。

その他はいかがでしょうか。

岩田委員

基本的なご質問ですが、そもそもパブリックコメントにお寄せいただいた1人ひとりの意見に市の考え方を返答するのでしょうか。

新拠点整備課

いただいた方々個人に直接返答はいたしません、いただいた意見とその返答については、市の公式ホームページなどで全て公開いたします。

岩田委員

おそらくその回答と想っていたが、さきほど委員長より「ご意見ありがとうございました」の気持ちで返答できないのかと考えた次第です。

新拠点整備課

気持ちは込めさせていただきますが、いたしかねます。

横張委員長

おひとりずつは厳しいと思いますが、例えば市の広報や他のメディアを通じて、「これだけ多くのご意見をいただきありがとうございました」といったことをお伝えすることは可能だと思いますので、そういったことも含めてご検討いただければと思います。

高橋委員

単純な質問ですが、今回の応募意見については約300件、回答者は90人とのことですが、90人の年代層はどのようになっているのでしょうか。

新拠点整備課

年齢については統計を取っておりません。

高橋委員

というのも、これから街に住む人は若い人が多いと思います。やはり若手の人の意見が出ていると非常に参考になるのではないのでしょうか。私のような高齢者の意見よりも参考になると思います。

横張委員長

ありがとうございました。

ぜひ事務局の方で把握できる範囲で、こういった年齢層の方が意見を出しているのか、カテゴリーごとの意見について、年齢層別の傾向を分析されるのが良いのではないのでしょうか。

特に高橋委員からご意見いただいたとおり、これからこの街に長く住まれる方のご意見としては、こういったご意見が多かったのかなどの分析ができるのではないのでしょうか。

新拠点整備課

承知いたしました。

その点につきましては、今後の取り組みの中で若い方、あるいは松戸駅周辺でも次世代の方々がまちづくりに参加いただけるような「MATSUDOING 2050」の取り組みを検討していきたいと思います。

パブリックコメントの意見提出の際に、必要項目として年齢を頂いていないところです。住所と氏名のみ必須項目となっております。

横張委員長

今の分析が難しいということですね。

一般論として、私ももうすぐ定年の人間ですが、そういう人間も暮らしやすい街という点も同時に検討いただければと思います。

林委員

確認させていただきたいのですが、はじめに「松戸駅周辺街づくり基本構想」が策定し、この度「新拠点ゾーン整備基本計画（案）」と段階的に展開しておりますが、相模台の国有地の土地区画整理事業などを含めまして、全ての基本計画の事業は、市民参加型ワークショップ「MATSUDOING 2050」などに記載されておりますけれども、2050年までに完了するという指針なののでしょうか。

新拠点整備課

「MATSUDOING 2050」の理念としては、2050年までに作るということではなく、今、街づくりを行う際に現時点から考えるのではなく、自分の子・孫の世代である少なくとも30年後の未来を見据えて今を考える、また私たち自身でつくっていくという観点で取り組んでおります。

横張委員長

他はいかがでしょうか。

秋田副委員長

最近、松戸市の都市計画マスタープランの改訂に伴い、松戸市が実施している市民アンケートの結果を見る機会がありました。その中で印象的だったのが、松戸駅周辺の松戸の顔となるような場所がない、といった意見が非常に多かったことです。

松戸市は、すでに人口が 50 万人に手が届く状態で、その人口規模で考えると、50 万人の 10%でも 5,000 人です。今回ご意見いただいた方が、仮に 100 人だとすると全体の 0.02% となります。これに対し、市民アンケートは数も多く、一般的な市民の方の意見の傾向を示していると判断できるものです。多くの市民の方々の意見が松戸駅の活性化を望んでいるというベースの上に基本計画（案）があり、その中でパブリックコメントをいただいているという全体像の認識も大事だと思いました。

新拠点整備課

ありがとうございます。

やはり「MATSUDOING 2050」の開催、あるいは市役所職員として市民と対応していても、松戸駅周辺の将来につきましては、期待されていると感じているところですので、引き続き検討を進めてまいりたいと思います。

横張委員長

他はいかがでしょうか。

長江委員

今話があったとおり、千葉県の中では人口が第 3 位、東京に一番近い千葉県内の都市ということで、市民の期待も十分多いと思います。また、不安もパブリックコメントも多く見られます。コロナ禍における事業凍結や事業費は本当に捻出できるのか、市民は課題としてとらえております。どうすれば実現できるのかというプランニングが見えてこない、パブリックコメントの中でネガティブな意見が出てくるのではないかと思います。

つまり、関心度が極めて高く、先ほどの 2 位というのがバックグラウンドとして表れているのではないのでしょうか。

新拠点整備課

ありがとうございます。

非常に難しいご質問ではありますが、先ほど秋田委員からもありましたとおり、松戸駅周辺への期待は大きいと常を感じておりますし、パブリックコメントは通常ネガティブな意見が多くなる傾向にある中で、これだけ応援の声をいただいていることに関して非常に期待の多い事業であると再認識いたしました。

一方で、長江委員からあったように、事業を進めることに対する不安というものを、市民が抱いているということに関しても、改めてその声の量、中身についても認識させていただきました。

長江委員

ありがとうございます。

それとともにプラスの考え方として、民間の活用、連携であったり、プランニングの際に地元のノウハウの活用などが前向きに出ているので、ぜひそれらの意見を吸い上げられる仕組みが一番良いのではないのでしょうか。

高橋委員

今、松戸市の人口がこちらに記載がありますが、松戸駅の乗降客数が非常に多いです。確か千葉市に次いで、松戸が2番であったと記憶しています。今現在は、そういう人たちが松戸市の中に入って行くかという現状はそうではありません。乗って降りて、素通りをしている状況であることから、これからはその点に関しても方策を考えなければ、活性化ができないのではないかと思います。

新拠点整備課

ありがとうございます。

まさに新拠点ゾーンに関しましては、駅近傍に豊かなみどりの歴史がある場所でありますので、松戸市あるいは松戸駅周辺の魅力をしっかり醸し出せるような計画にしていき、今のご懸念が払拭できるような計画を検討してまいります。

横張委員長

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

議長としまして、1つ感想を述べさせていただければと思います。大きくは3点となります。

まず、市民のご意見の中でわかりにくいというご意見が非常に多い印象を受けました。わかりにくいという中にはいくつか理由があると思いますが、どうしても難しくなってしまうざるをえないという点もあると思います。特にこのプロジェクトに関しましては、土地の所有の問題、所有を巡った都市計画上の制度の問題、制度が醸し出す手続き上の問題であるなど、都市計画を専門としている人間としても、よほど注意しないとどこにどういう制限があるか、手続きをどこでしないと頓挫してしまうなど、わかりづらいことが多くあります。

したがって、どれだけ説明を尽くしても、よほど制度に精通していなければわからないということがあろうと思います。この種のわかりづらさは、残念ながらパブリックコメントを通してわかっていたくのは難しい。しかし、これが解決しなければそもそもの基盤ができない。この点のわかりにくさは、ある程度はご勘弁いただくのは致し方ない。

例えば、医者が患者に対して、病気、治療のことを説明しようとしても、一般の人にはわかりづらいということが残ってしまうようなことと同じだと思います。

しかし、一方で、いわゆる日本の伝統的な誤魔化し的なわかりにくさがあると思います。これはなんとか払拭していただきたいと私は思います。

例えば昨今の、コロナ禍の中であって、ドイツの首相のメルケルさんの言葉が、しばしば非常に感銘を受けた演説であるということが引用されております。

彼女が言った言葉で、私が非常に印象深かったのは、私は東ドイツ出身であると、であるがゆえに、自由ということの大切さ、自由を守るということの意味、それはもう痛いほど知っている人間であると。だからこそ自分の言っている、自由を制限しなければならない事態だということにどうか理解いただきたい。ということ、国民に第一におっしゃった。

これがものすごく国民の心に響いた。こういう分かりやすさというのは、ぜひ心掛けていただきたい。そこに何か付度であるとか、駆け引きであるとか、そういったことは抜きにして、しっかりと伝えることは伝えるということにつきましては、ぜひ心掛けていただきたい。

いことがまず第一点です。

それと、そのわかりやすさと関連いたしますが、やはり市民参加の問題につきましては、これからもぜひ色々な形でもって継続する、これをお願いしたいと思います。

私自身もお声かけいただければ、出来る限り何かしらのお手伝いはさせていただきたいと思っておりますけれども、ぜひこれからも市民の方からの意見を吸収する場を継続していただきたい。今年にはコロナの関係もございまして、そうした場を設けるのが非常に難しかったという事情があるのは致し方がないと思っておりますけれども、ある程度感染が収束した折には、また継続的に市民の声を聴く機会というのを設ける、そうすることで分かりやすさというもの、あるいは市民の方々の声を少しでも拾い上げるという努力を続けていただきたいと思います。

最後に、これはもしかすると後程資料の4番の新拠点ゾーン整備基本計画(案)に関連することかもしれませんが、私がこのパブコメの中身を拝見させていただいて一番残念だったことは、新拠点ゾーンの整備＝市役所の移転であるという誤解が非常に多かったという点でございまして、これは「MATSUDOING 2050」の中でも、市民の方々と議論してきたことですが、今ここに建っているこの庁舎、それに代わるものを新拠点ゾーンにそっくりそのまま新しく作るということを議論してきたつもりは、私は全く無かったです。

そうではなく、そもそも、市役所が果たすべき機能、役割としては何があって、そのうちのどういうものが、新拠点ゾーンに、そのための母屋を含め移すべきなのか、逆に言えばどういった市役所の役割が、そうした新しい母屋ではなくて、別の形でもって市民にサービスを提供したり、あるいは場所を確保したりするのかといったことを、議論してきたつもりがありました。

ところが、それが市民の方々のご理解の問題だけでなく、市から発せられる情報の中にも、いつの間にか市役所の議論とすり替わってしまったことが、私の目から見ても、散見される場所があり、これが大変に誤解を生み、また残念な点であったことを理解しております。

ここからは私見を含めて申し上げますが、防災上のしっかりした、母屋の拠点が一刻も早く必要であるという点においては、「MATSUDOING 2050」において、皆さまから指摘のあった点であると思っておりますし、恐らくではございますが、市民の皆さま方からしても、異存があまりないのではないかと期待いたします。

私が最近、講義や講演を依頼されてよく使う図の1つが、世界経済フォーラムという団体がございまして、それが丁度去年の今ぐらいです。パンデミックが起きる以前に出したグローバルリスクレポートというレポートがあります。そのレポートを見ますと、これから人類が待ち受けている様々なリスクの影響度合いと、起こりやすさというのを図にしているのですが、感染症度合いというのは、実は平均的なレベルでしかなく、起こりやすさにしても、あるいは影響度合いにしても、様々なリスクの平均でしかありません。

では、より起こりやすく、影響度合いも大きいものとしては何があるかということ、その図では、例えば自然災害、あるいは大規模な気候変動の対応の失敗、それから極端な気候の対応です。こういったことの方が、はるかに発生確率が高く危険度合いも高いという整理がなされている。

日本の場合では特に世界的に見ても、その種の話が一刻の猶予もなく、ご存じのとおり首都圏では向こう30年以内位には大規模な地震が発生する確率が7割あるといわれておりますし、つい先日にも、私は茨城に暮らしておりますが、震度5の地震がありました。そうい

う中であって、防災は一刻の猶予も許されない、これは皆さま方もご異論がないのではないかと思います。

この辺りはお金をケチらずに、一刻も早く市民の命を守る施設を、新拠点ゾーンを中心に整備するというについては、はっきりと言うべきではないかと思います。

それに対して、それ以外に市役所が持っている役割、例えば市民サービス、これについては、今回のコロナ禍ではそうでございますし、高齢化の問題でもそうでございますし、あるいは少子化の問題でもそうでございますけれども、いかに市役所に来ないで市民サービスを受けることが大事です。

例えばそのためには、既存の市内にある様々な施設をリノベーションして、そこに ICT を導入して、言ってみれば自分の家から 5 分も歩いて行けばほとんどのサービスが受けられてしまう。このような整備をする。言い方をかえれば、新拠点にそのような機能は持ってこないということははっきり言うべきではないかと私は思っています。

さらに市役所の一般業務とかもっと言えば議会とか、これも何も新拠点に持って来る必要はないわけです。この現庁舎を補強してそこに留まっていたとか、あるいは、今後駅の周りで、事業者が撤退してビルに空きが出たらそういったところを借り上げて、リノベして ICT で繋げてあげて有効活用する。このような施策を積極的に考えるべきではないかと思えます。

このような議論というのが、「MATSUDOING 2050」の中でも結構出てきました。

しかし、今回のコロナ禍を通じてそれが一段と顕在化し、また一刻の猶予もなくなってきたということがはっきりしたと、私は現状を捉えており、そういった点をはっきりと表明することによって、少なくともその誤解を伴うような指摘に対しては、何となくお茶を濁すような回答をするのではなく、これが、市が考えることではっきりと表明していただくことが大事なのではないかと思えます。

そして最後になりますが、防災について、これは私の同僚の防災の専門家の先生がおっしゃるのですが、防災というのは防災だけの目的のために造ったのでは使い物にならないとおっしゃっています。

要するに、普段使いで人々がそこを使っているという場所が、いざというときに人々があそこに行けば大丈夫だと直感的に分かるので、いかに普段使いしてもらうことが大事であるとおっしゃるのですが、まさに先ほど長江委員もおっしゃりましたが、図書館であるとかテレワークのための施設であるとか、あるいは、今回松戸市がすばらしいことをやりましたが、子育て施設とテレワークを一緒にくっつけたそういう場を用意するとか、こういったような場を普段使いとしてできる。

しかし、それがいざとなったときには、防災上の拠点となる。こういうエリアを新拠点につくり、それと同時にみどりを普段使いとして憩いの場として使う、そこもいざという時には、避難民の方々を収容できるような場になるとか。そういう位置付けで考える必要があると思えます。

ですので、難があって申し訳ないですが、今申し上げたような点を個々の指摘に対して丁寧にお答えいただくとともに、一方では全体をカバーする、様々なご指摘に対して市はこれです、といった答えをはっきりと出していきたい。

新拠点整備課

ありがとうございました。

新拠点ゾーン整備基本計画に書かせていただいている、市役所機能の再編整備という文字は書かせていただいています、その中身について、市としての考え、市民の皆さまにご理解いただきたいことを、明確に示していく必要があると。そういうことを承りました。

今後そのように進めさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

横張委員長

他にいかがでしょうか。

秋田副委員長

はい。

横張委員長

はいどうぞ。

秋田副委員長

私自身も横張先生と同じ考えを持っています。新拠点に関してまずは防災であろうと。それから普段使いが重要ということも十分に認識しておりましたので、緑ですとか、我々の大学の学生が日常的に使えるような図書館だとか、あるいはオープンスペースですとか、そのようなものも必要だと思っていました。

今回、市民の方からわかりにくいというご意見が多くでた要因の1つが、今回の構想の前段階となる「松戸駅周辺まちづくり基本構想」のときに、公共機能のあり方がはっきりしておらず、なんとなく市民の方々の推察が含まれる内容になっていたのではないかと考えています。しかし、「MATSUDOING 2050」のワークショップ等を重ねながら、その中で市民の方々からやはり防災はどうしても新拠点に必要なのではないかというようなご意見をいただいて、我々もそのとおりだと思い、そのあたりが明確化されてきた。

その点が、基本計画では読み取りづらいこと、さらに、最後の関連資料のところに、市庁舎全体のことが描かれていたということが、市民の方々が理解しにくくなった原因の1つではないのかと思いました。

横張委員長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

だいぶ2番目の新拠点ゾーンの修正内容の話に私も勇み足で踏み込んでしまいましたが、特にこのパブコメの結果報告にご意見がございましたら、2番目の新拠点ゾーン整備基本計画の修正内容の方に移りたいと思います。

では事務局よりお願いいたします。

新拠点整備課

それでは、議題2の新拠点ゾーン基本計画（案）の修正内容についてご説明いたします。この件につきましては、資料2の「新拠点ゾーン整備基本計画（案）【新旧対照表】」にてご

説明いたします。

それでは、1ページをご覧ください。

この新旧対照表は、左から順に基本計画案の該当箇所、パブリックコメントの意見、修正前、修正後となっております。

修正箇所の1つ目は、基本計画（案）5ページの、上位計画関連図について、「都市再生緊急整備地域整備方針」が「松戸駅周辺まちづくり基本構想」に即するとすべきではないか、とのご意見に対し、ご指摘のとおり修正いたしました。

2つ目は基本計画（案）36ページの、ひらがなの「みどり」の定義について、本計画内の「みどり」の定義が一般的ではないのでは、とのご意見に対し、本計画の定義はやや広義に捉えすぎていることから、一般的ではないと判断し、本市の「みどりの基本計画 計画骨子案」を参考に修正いたしました。

3つ目は50ページの「高低差を利用して建物を整備する」という表現が、地形を壊して斜面を建物で覆うように読める、との指摘がありましたので、表現を修正しました。

続きまして2ページをご覧ください。

修正箇所の4つ目は、54ページに記載のある、「新拠点ゾーン内の自動車の滞留を抑制し」という一文を削除することで文章がスッキリします。とのご意見については、ご指摘どおり修正いたしました。

5つ目は、55ページの新拠点ゾーンから周辺への波及の中の「松戸駅周辺全体に波及していくことが期待されます」という表現は、無責任な感じがする、といったご意見があり、ご指摘を踏まえ「波及していくことを目指します」に修正いたしました。

次に3ページをご覧ください。

修正箇所の6つ目は、60ページの事業手法の考え方について、土地区画整理事業は保留地が売れない場合のリスクがあるのではないかと、といったご意見があり、これに対し、売却が前提とされてしまう「保留地を定め施行費用に充てることができる」という表現を「保留地として事業費相当の土地を取得する」という表現に修正いたしました。

7つ目は、77ページの「新拠点ゾーン（相模台地区）におけるあゆみ」の中で、中世の歴史について触れられていない、とのご意見がありましたので、戦国時代の合戦について追記いたしました。

以上がパブリックコメントの指摘による、修正箇所でございます。

その他に、事務局により修正すべきと判断した箇所が2箇所ございます。

4ページをご覧ください。

基本計画（案）66ページの想定される財源の庁舎建設基金について、積み立てを令和4年度までとしておりましたが、施設建設が令和7年度からの計画としておりますので、令和6年度までを積立期間に修正しました。

続いて5ページをご覧ください。

同じく66ページの、想定される事業効果の中の税収想定増分について、説明の補足のため「建設投資などによる波及効果」を追記しました。

以上が修正箇所でございますが、本日配布の資料の「新拠点ゾーン整備基本計画（案）」については、資料4ですが、修正箇所を反映したものになっております。

以上ご説明とさせていただきます。

横張委員長

ありがとうございます。

では、ただいまご説明いただいた新旧対照表の修正内容につきまして、皆さま方のご意見、ご質問をお受けしたいと思います。

秋田副委員長

はい。

横張委員長

はいどうぞ。

秋田副委員長

資料2の2つ目の指摘は、たしかにそのとおりだと思います。

例えば38ページの上の、新拠点ゾーンにおけるみどりを生かす機能ですが、さすがにこれはわかりづらい印象を受けました。既に修正後だと思いますが、現状でも「緑とみどり」が何度も出てきてわかりにくいと思いました。

36ページや37ページに使っている漢字の緑ですが、これは普通に緑地ですとか、樹木にしないと、たぶんその後の3番の「緑を生かしたみどり」という表現の意味が、わかりづらいと思います。38ページの漢字の緑は緑地や樹木等というふうに、少し表現を検討したほうがよろしいかと思いました。

横張委員長

どうもありがとうございます。いかがでしょうか。

新拠点整備課

ありがとうございます。

検討してご相談させていただきながら詰めていきたいと思います。

横張委員長

いかがでしょうか。

秋田副委員長

もう1つだけよろしいでしょうか。

資料2の1つ目のご指摘に関連するのですけれども、上位計画の概要ということで9ページに、松戸駅周辺まちづくり基本構想が掲載されているのですけれども、都市計画マスタープランも含めて、もう少し関連計画のおさらいみたいな事を丁寧にして頂いた方が、ここに至った経緯がその時間と共に考えが次第に熟してきてこうなったという事が伝わるのではないかと思いました。

ありがとうございます。

新拠点整備課

9 ページに、松戸駅周辺まちづくり基本構想の概要を書かせていただいて、次の 10 ページに書かせていただいております。

新拠点整備課

一応趣旨としては、今回の基本計画、新拠点ゾーン整備基本計画の直系のものを丁寧に説明させていただくために。という意味で絞らせていただいているのですが、ご指摘としては全体像から入った方が、中身が見えるのだろうというご指摘なので少し考えさせていただきます。

秋田副委員長

先ほども言ったのですが、やはり体の大きい街なので、積み重ねを丁寧に説明することが大事だと思っていて、例えば、その都度市民の方々の意見を反映された結果として、それぞれの計画なり、方針なりがあることをじっくり示すことも必要だと思いました。

新拠点整備課

わかりました。ありがとうございます。

横張委員長

はい、他にいかがでしょう。

林委員

事務局の方からお話がありましたように、まちづくり基本構想、そしてまた今回の新拠点ゾーンの中で、そういう基本の中で、街づくりにあたりまして、災害時をどうするかということもあります。

最近 50m/s 以上の大型台風が予想される状況の中で、比較的松戸市内、電線、電柱の地中化というのは割かし少ないものですから、その辺も考慮の 1 つとして入れていただければ幸いです。

横張委員長

いかがでしょうか。

新拠点整備課

特に、新拠点ゾーンを防災の災害対応拠点として整備する際には、例えば国道 6 号から入ってくる時に、その道が台風で電柱が倒れてしまって通行できません、ということになっては、せっかく造った防災拠点が効力を発揮できないので、今ご指摘いただいたことも踏まえて整備を検討して参りたいと思います。

横張委員長

はい。

太下委員

パブコメの修正点ということで、3点コメントさせていただきます。

1点目が先ほど横張委員長もおっしゃって、いま林委員もおっしゃった防災ということですが、防災が一刻の猶予もないことだし、尚且つ同時にこれは非日常の話なので、普段使いが重要であるというご指摘は、委員長のおっしゃるとおりだなと思いました。そういった意味では市役所としての自分で出来ることを最大限やっていくべきだと思うのですが、同時に自治体間の協力というのが3.11以降、全国的に広まっています。

具体的に言うと災害時の防災協定というのが、全国の自治体同士でものすごい数が結ばれています。多くが周辺の自治体とともに同時被災をしないようにという、同時被災したらお互い助け合えませんが、かなり遠方の自治体との協定が増えている。ちょっと調べてみたら松戸市さんの場合、愛知県の小牧市とか岐阜県の高山市、鳥取県の倉吉市と提携しています。市民の方はご存じでしたでしょうか。

おそらく、いざ非日常になった時に、じゃあ助けてください、逆に市民のボランティアにしても助けに行こうとなったとしても普段の交流がないと、そのリアリティはかなり薄くなってしまうと思います。

そういった意味では、この新拠点ゾーンの中には、文化とか交流の機能が大きくイメージされているわけですが、その文化を活用して、普段から防災協定を締結している自治体の市民同士が交流するということをいわゆるハード面とは別に続けていくことが、すごく重要になっていくのかと思いました。これが1点目です。

2点目としては、これは長江委員もおっしゃっていましたが、この中に図書館というものがあつたらいいと思います。新しい図書館ですね。そういう要望が市民の皆さんからも声としてあがってきています。そして、ご案内のとおり、これからの図書館は大きく変わっていくわけです。

前回の委員会で私が申し上げた記憶あるのですが、上海の図書館とかニューヨークの図書館とか、起業支援が非常に大きな機能になってきています。おそらくこれからは単なる起業支援だけでなく、色んな情報が紙媒体からデジタル情報になっていくことを考えると、デジタル情報の提供拠点としても図書館は大きな役割を果たすと思います。

もしかしたら、Googleで引けば世界中の情報にアクセスできるから、逆に図書館の役割は無くなるのではないかと考えている方がいるかもしれませんが、それは全く逆で、Googleの検索というのはユーザーに最適化していく、すなわち、自分が知りたいと思っていることを勝手にGoogleが考えて適切な情報を提供していくので、実は提示される情報は徐々に狭い分野に絞られていってしまうのです。

客観的に広い情報を得ようと思ったらGoogleとかのアルゴリズムには頼ってられないのです。そういった意味で新しい情報を提供するような公共機関はすごく役割が重要になります。それに近い職能を持っているのが図書館です。これからの新しい時代に向けても図書館というものの在り方、そういったものが非常に重要になってくると思います。特に起業支援ということを考えても、つい最近のニュースでヤフーが副業人材を公募したところ、100人くらいの枠に4,500人くらい殺到して、結果として採用された100人の年齢というのは、10代から80代まで非常に幅広かったのです。

このように多様な働き方が前提となる時代ですから、そういったことを行政としてサポートするような新しい図書館、もしかしたら図書館という名前じゃないかもしれませんが

れども、そういった機能も検討していく必要があるだろうなと思いました。これが2点目。

3点目、最後ですけれども、この事業全体が広義の再開発事業ということで想定されているかと思います。当然、再開発には横張先生や伊東先生が専門ですが、様々な事業手法というものがあるわけですが、おそらくそれらの事業手法というものですけど従来の将来成長していくという社会を社会・経済の前提として組み立てられていると思います。

ただ一方で、ご案内のとおりこれからの日本というのは、今後100年間くらいかけて人口が半減していく時代になっていくわけです。今のところ直近では松戸市は人口が増えているようではありますが、松戸市も例外ではないと思います。明治維新以降150年以上かけて人口が倍になってきたプロセスを逆のプロセスでたどっていくことになるわけです。

そういった今まで世界中のどこの国も経験していないわけですが、誰も経験したことがないような縮減していくプロセスに適合するような新しい事業手法を、おそらくこの新拠点ゾーンでは考えていかななくてははいけない。

東京周辺の再開発を考えると、本件は非常に大きな再開発になると思いますので、多分ここで考えていかないと、どこかほかで先進事例できるといいなと、そういうことにはならないと思いますので、まさにこの松戸からその新しい時代に対応した新しい事業手法というものを考えていく必要があるのかと思いました。以上です。

横張委員長

どうもありがとうございました。

今ご指摘いただいた3点は、私も非常に共感する点ばかりでございますけれども、まずは事務局の方からいかがですか。

新拠点整備課

防災という形で新拠点ゾーンを示させていただいていますけれども、新拠点ゾーンを造ることによってそこでどうにかするということだけではない。本当に防災の役割を果たすためにはということで、色々ご助言いただいたと理解いたしました。我々所管課ということではなく、市として非常に貴重なご意見をいただいたという風に理解していますので、今後の市政に生かしたいと考えます。

もう1つ、図書館につきましては、太下先生から何度か同じようなご指摘をいただいております。今後図書館という役割を考えていかなければいけないという風には認識しているところです。現段階でお示しすることはまだできていないのですが、今後、北側の試みの場については、いまいただいたご助言も踏まえて民間企業や市民の皆さま含めて、「MATSUDOING2050」の取り組みなども踏まえて検討を重ねてまいりたいと思います。

3点目、再開発ということに関しましては、やはりこちらも横張先生や、太下先生からも言われたとおり、今までの再開発の考え方とは違う形のを新しく創造していかなければいけないのだというご指摘かと思っております。どうしても我々行政は今までの仕組み、考え方から抜けられない面がありますので、そこを何とか脱却して、将来選ばれる松戸市にしていけるように検討を重ねて参りたいと思います。よろしく願いいたします。

横張委員長

ありがとうございます。

私ばかり発言して大変恐縮でございますが、いま太下先生のご発言に大変共感するものがございますので、少し私の方から補足させていただきたいと思えます。

まず、再開発に関してですが、太下先生ご指摘のとおり従来型の再開発、いわゆる拠点で大きなお金を使って、ドーンと建てて、それを起爆剤にして経済を活性化するというようなタイプの再開発は、はっきり言って無理であります。

なぜかと申しますと、元々、人口減少し高齢化しという中で、そうした開発をしようとするところが、いわば椅子取りゲームのような状況に元々あったのです。そこに加えまして、今回のコロナ禍を通じまして、人々の就業パターン、あるいは購買のパターンというのがガラッと変わってしまった。そしてこれはコロナ禍が収まっても、もう元には戻らないということが多くのところ予測されています。

例えば、私は今、別のプロジェクトで JR 東日本の方とか、あるいは大きなデベロッパー方と一緒に仕事をしているのですが、こうした方々が、しかもそうした企業のトップの方々が口をそろえておっしゃるのが、もう無理ですということです。JR 東日本はもう根本的に単なる輸送業という業態から業種を変えますとまでおっしゃっていますし、大手デベロッパーの方に関しましては、悪いけれどもこれからはタワマンを建てて下に商業施設入れてというようなものからうちはもう撤退しますということを企業トップの方が、かなりもうはっきりとおっしゃっている。そういう時代になっております。

従いまして、従来のような何か大きなお金をかけて立派なものをドーンとつくって、それでまちづくりだ、活性化だという話、夢はもう捨てざるを得ないのはかなりはっきりした将来であると言わざるを得ないと思えます。

そうした中で、さらに大変厳しいことを言う様で申し訳ございませんが、松戸市を含むような、首都圏でいえば 23 区の外円から大体 30 キロ圏くらいの間、ここが今申し上げたような、いわば時代の動きを最も強くあおりを受けてしまうエリアになろうとしています。これは歴史を振り返ってもそうございまして、例えば 19 世紀に 2 度にわたってコレラがロンドンで大流行した。

この結果として何が起きたかといいますと、一部の特権階級、お金持ちが、都心と郊外の田園地帯に自分たちの安全安心のための郷を確保し、その間のエリアに工場労働者を中心とした低所得者層が押し込められてしまって、結果的にそこが低所得者の住む非常に劣悪な衛生環境の街になってしまった。そしてそれが、19 世紀の半ばにこれらの大流行につながると、こういうことが起きてしまった。

それと同じことが繰り返される危険性というのが、いまアメリカでも既に起きていますけれども、日本にあっても、もし、同じようなことが起きるとすると、首都圏や、いま申し上げたような 23 区の外円から松戸市等を含むような、こうしたエリアというのが、その一番あおりを食らうことになってしまう危険性があると思うのです。

従いまして、そうした自治体として、これからどうやってこの街を人から選ばれる、人々が安心してこれからを暮らしていける街にするのかという命題に対しては、繰り返しますけれども、従来のような再開発の手法というのに夢を抱くということにつきましては、すっかりとあっさり完全に捨てなければならないと、私は確信しております。そうしたことを専門としてきた人間としては、それは確信しているところでございます。

それから一方、そうした中でどういう魅力が付与できるかということにつきましては、これも太下先生のおっしゃるとおりなのですけれども、私の言葉としては「非予定調和的」ない

しは「偶発的な様々な出会いができる場所」というのが、これからはデジタル化が進めば、いわゆる DX が進めば進むほど、その街の大きな魅力になっていくという風に考えています。つまり、予定調和的に効率的に欲しい情報を手にする。これは完全にデジタルの世界になってしまう。キーワード検索すれば、すぐにそうしたものが手に入る。

が、しかし、それでは絶対手に入らないものは何かというと、本当は目的としていなかったとか、場合によって自分はあまり好きでは無かったとか、あえてそういうところに自分から足を運ぼうと思っていなかったような所に、たまたま行きついてしまったことが大きなヒントになった、フレックスになった、そういうことを提供できるということがその街の大きな魅力にこれからはなっていくのだろうという風に思うのです。

ですので、そういった意味で図書館という話はまさにそうでございますし、その図書館にしても単なる図書館ということではなくて、そこに様々な機能が付与されていたり、あるいは他の機能との複合的な空間となっていたりとなる中で、今申し上げたような「非予定調和的」な偶発的な出会いというのが促進される、そんなことが問われていくのかなと思っております。そうした議論を先ほどの私の繰り返しになりますが、ぜひ、この業務計画を踏まえつつも、その先に市民参加を経ながら皆さまと一緒に議論していくと。

そして魅力ある街を作っていくということが大事なのではないかと思っております。言ってみればその最初のたたきが、この基本計画であってこれをもってして後は何かが粛々と進むということではなくて、これに基づきながらも、しかしその先に皆さんとどういう色を塗っていくのかが、これから問われるのではないかという風に私は思っている次第です。

すみません、また長くなりましたが、以上でございます。いかがでしょうか。

長江委員

ありがとうございます。

今の横張先生のご意見に賛成ですが、その他に持続可能な社会の中で、SDGs も皆さんのパブリックコメントの中に出て来ています。クリーンエネルギーというか、いわゆる太陽光発電とか、その中の例えば電気の供給に持続可能、低コストで供給していけるような未来型というのでしょうか。そのような配慮が必要です。進んでいる・面白いとか、子どもたちの教育にもいいとか、そういうことをぜひ、松戸から発信していただきたいという風に思います。

うちの大学の図書館は、一部を太陽光発電しておりまして。本来、全部供給したかったらいいのですが、コストが見合わなく実際は半分ぐらいですけど、毎日どれくらい発電しているかというのが目に見える所にありまして、学生にもいい影響を与えていると思います。

それと安全と安心・防災の中において高台であるということは、水に関して極めて安全ですよね。例えば、江戸川が地震で水が逆流しても大丈夫とか。高台でありながらも活断層が一部通っているというような、昔の地図でもわかる場所もありますので、高台の中の斜面に関しては崖ですからその強度とかに関してきちんと調査していただきたいと思います。

また、この地域は実は文化財が出てきたということもありますので、東京湾の下総台地ですから当然様々な遺跡品などが出てくる可能性がないとは言えないので、これまでの教育委員会等の調査を含めて開発にはご配慮いただくとおもうのですが、それらも大切にいただいて、街の文化的な資産という形で活かしていただくと、図書館も先ほど横張先生がお

話していただいたような、松戸は考古学遺跡の宝庫なのですね、実を言うと。

そういうものに関することも含めて、新しい子どもたちに対する刺激や研究の場所になるかなと思いますので、その点もよろしくお願いします。

横張委員長

はい。どうもありがとうございました。

新拠点整備課

はい。ありがとうございます。

多岐にわたってご意見いただいたのでトレースすることもままならないのですが、貴重なご意見をいただいたと認識しておりますので、今後の検討に生かさせていただきたいと考えております。

横張委員長

はい。どうもありがとうございます。

他にいかがでしょうか。どんなことでも結構でございますので、ぜひご意見等承りたいと思います。はい。どうぞ。

秋田副委員長

長江委員のご指摘のとおりで、広い意味での環境という概念が抜けていたかなと私自身も思っています。みどりの所に環境を含めていますが、SDGs等の近年の概念については、もはや前提だから言及していなかったという部分もあると思いますが、それでも温暖化やSDGs等の記述を少し入れた方が確かにいいかなと。

それから、歴史文化がやはりその松戸の非常に重要な個性であり、これからの引き継いでいくべきことであるという記述も少し足りないかもしれない。

新拠点整備課

はい。ありがとうございました。

今の頂いた意見をもとに、もう少し検討を深めたいと思います。

横張委員長

はい。ありがとうございました。

他にいかがでしょうか。なんでも結構でございますが、ぜひご意見等ございましたらご意見等承りたいと思います。

横張委員長

この整備基本計画（案）の審議は、本日が最終回ということになりますので、今回の委員会をもちまして、この後は答申ということになります。

ですので、最終的な答申に向けて、飲み込むべきご意見等頂けるのが今日が最後となりますので、ぜひ何かもう少し考えてほしいということがございましたら、細かな話でも結構でございますのでぜひ頂ければと思いますのでいかがでしょうか。

はい。どうぞお願いいたします。

高橋委員

新拠点と旧水戸街道の連絡路、こちらが非常に弱い。

それから旧伊勢丹と松戸市民会館のアンダーパス。それと松戸神社の JR の下の散歩道、これでいいかなど。将来的にも、先ほどから防災で水害の話も少しありましたが、もし江戸川が決壊した場合には西口がほとんど水浸し、そうするとどこへ逃げるか。ということになりますと、その通路の部分になると色々な問題が発生するかと思いますけれども、色々に対応するとどういう手段になるか。

将来的にも考えていかななくてはいけないのではないかと考えております。

横張委員長

はい。どうも貴重なご意見ありがとうございます。

今のご意見に関しましていかがですか。

新拠点整備課

はい。本市も新拠点ゾーンの計画は、新拠点ゾーン整備基本計画としながらも、55 ページで新拠点ゾーンから周辺への波及という項目を設けさせていただき、松戸駅周辺との関わり、連絡というところは非常に重要なポイントであると認識しております。

また、新拠点ゾーン整備基本計画とは別に進めております、都市再生緊急整備地域の候補地域としての取り組みの中でも、やはり東西の連絡というのは非常に大切だにご指摘もいただいているところです。

短期的にどうにかなる問題ではないと認識しているところではございますが、長期的に先ほどの江戸川が氾濫した時の、西と東の連絡という観点からも、非常に重要なポイントとして認識させていただいております。

横張委員長

はい。どうもありがとうございます。

その際に今ご指摘ございましたけれどもアンダーパスですね。水害に際して全く使えないわけですから、そういった点も現状ではアンダーパスに繋がっていたとしても、いざという時に使えなくなった場合はどうするのかと、同時に考える必要がありますよね。

他にいかがでしょうか。そろそろ予定された時間になりました。

本日多様なご意見を頂戴いたしておりますが、先ほど事務局の方もすぐには整理がつかないと言ったご意見もございましたので、答申につきましてですが、先ほども申しましたように本日が最終回でございます。これにつきましてはいかがいたしましょうか。

岩田委員

委員長にとりまとめていただければと思いますが。いかがですか。

横張委員長

よろしいでしょうか。申し訳ございません。

では、皆さま方のご意見を最大限に私の方で汲み取らせていただきながら、最終的な方針をまとめさせていただくという形にさせていただければと思います。どうもありがとうございます。

答申に際しまして配慮したほうが良い点がございましたら、この場で付け加えさせていただいて結構でございますが、何かございますか。

よろしいですか。はい。わかりました。

では、お任せいただくということで恐縮でございますが、私の方で責任をもって答申を作成させていただきたいと思います。

では、次の議題と言うことで、次第にはその他とございますが、何か皆さま方よりご意見ございますか。

横張委員長

事務局いかがでしょうか。

新拠点整備課

事務局より特にございません。

横張委員長

はい。わかりました。

では、特にその他ございませんでしたら、以上で本日の次第はすべてでございますので事務局に司会をお返ししたいと思いますのでよろしく願いいたします。

司会

それでは傍聴の皆さまにお願いいたします。


配布資料はお持ち帰りにならず、その椅子の上においたままご退席いただきますようお願いいたします。

報道関係者の方も機材等お忘れにならないようにご退席の方お願いいたします。委員の皆さまにおかれましてはそのままお待ちください。

この議事録の記載が真正であることを認め、署名する。

令和 7年 12月 22日

松戸駅周辺まちづくり委員会

委員 長江曜子 

委員 林 護 